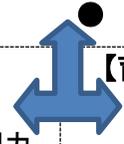


令和4年度 長崎県立大村高等学校「ふるさと教育」体系図

学校番号：14

| | | |
|-------|--|--|
| テ | 自ら地域を探り、究める力で地域の未来を創造！ | |
| ー | ～「探究活動」を通して「ふるさと」の課題を知り、解決策を考える～ | |
| マ | | |
| 目 | 科学的な思考法による探究活動を進める中で、「ふるさと」の身近な自然や事象（歴史・文化等を含む）が有する価値や魅力に「ふれる」とともに、地域社会や実生活といった複雑な文脈の中に存在する課題に目を向け、そこに「くらす」多様な人々と主体的に「つながり」ながら粘り強く課題解決に取り組む。その学びを自己のキャリア形成に活かし、ふるさと（大村地区、長崎県）の人々の「永続的でより良い未来」のために新たな価値を創発できる人材を育成する。 | |
| 標 | | |
| 育成したい | 校是「両道不岐」の精神のもと、21世紀の地域社会及び国際社会を担う心身ともに健康で調和のとれた、個性豊かな人間の育成 | |
| 資質・能力 | 【涵養】 ● ふるさとへの愛着心と誇り | 【育成】 ● 自らの学びを活かし、地域や社会のリーダーとして活躍・貢献する意志 |
| | 【習得】 ○ コミュニケーション力・協働性、実践力 ○ 課題発見力、課題解決力 ○ 科学的思考力・批判的思考力・判断力・表現力 | ○ 伝統、文化に立脚した豊かな感性をもとに新しい発想ができる力 ○ 試行錯誤や振り返りをもとに自己修正していく力 ○ 校是「両道不岐」を実践し、自己実現につなげる力 |



| | | | |
|---|-----------------------|--|--|
| 外部連携機関 | | 長崎県立大村高等学校 (数理探究科、普通科、家政科 1年、2年、3年) | |
| 【行政機関等】 ・大村市役所福祉保健部 ・大村市役所都市整備部 他 ・長崎県教育庁 ・大村市教育委員会 | 連 携 ・ 協 働 | 組 ふるさと教育連携協議会 [委員長] 校長 [副委員長] 教頭 [委員] 教務主任、研究・図書部主任、進路指導部主任、生徒会主任、SSH企画部主任、各学科主任、各学年主任、同窓会担当 | |
| 【大学、研究機関等】 ・長崎大学 ・長崎県立大学 ・長崎総合科学大学 ・活水女子大学 ・鎮西学院大学 ・ミライ on 図書館 | | 主 ○大学・研究機関・行政機関と連携しての課題解決に向けた探究活動 (1)大村視てあるき/地学巡検 (2)長崎街道インフラさるく/大村さるく (3)高大連携講座(大学セミナー等) (4)職業セミナー(地域や同窓会の協力の下、様々な職種の講師を招いての職業講座) (5)成果の発表…中間・最終発表会は地元中学生等にも広く案内。成果物(論文集)は関係機関へ送付。 | |
| | | 取 ○数理探究科・家政科の各種研修講座、交流活動 ○生徒会：「歓迎遠足」市内3か所に分散集合し、自然や風情を楽しみながら野岳湖畔の目的地を目指す。 ○部活動：各部年1回以上、地域ボランティア(美化活動等)や施設訪問、地域活性化活動など行う。 ○同窓会：開校記念日(11/1)の「同窓会講演会」により生き方・進路意識、母校愛を育む。 ○外部との連携 (1)県教委生涯学習課「ながさき家庭教育支援事業」 (2)県内企業説明会(未来人材育成セミナー) (3)「大村市都市計画マスタープラン地域別構想ワークショップ」への参加 | |
| 同 窓 会 育 友 会 地 域 住 民 | | 組 【成果指標】 ①将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合 → 85% ② ①の達成を目指して「ふるさと教育」を行った教員の割合 → 95% | |